

# 躍 YAKUDO! 動

# SPORTS

山形市体育協会だより

第7号

## SPORTS PEAK PERFORMANCE



### 東海大学山形高等学校 山形県勢初のベスト8



写真提供・山形新聞社



第76回選抜高校野球大会が平成16年3月23日から4月5日まで、甲子園球場にて開催されました。  
 東海大山形ナインは、強豪を相手に最後の最後まで食い下がり、堂々たる戦いぶりで県勢悲願の甲子園ベスト8入りを果たした。  
 ピンチをピンチと感じさせないチームの雰囲気、明るさは試合の中でも随所に見うけられた。  
 レギュラーの多くが、1年生の時から正選手として活躍。豊富な経験と、それによって培われた自信がチーム全員に波及し、それが『強み』となり、快進撃を支えた。  
 これは、本県球史に残るとともに、甲子園をめざす県内各校の選手・監督にとっても、これ以上ない刺激を与え、本県全体のレベルアップを図る上でも大きな意義を持つことに違いないだろう。



写真提供・山形新聞社

# 頂点

P E A K

## 小林 正暢

Masaaki Kobayasi

二〇〇四年二月に、僕の夢のひとつであった、ワールドカップ優勝という目標を達成できたことをとてもうれしく思います。また応援してくださった人達にも心から感謝したいと思います。

まず、僕がスピードスケートを始めたきっかけは、三歳から行っていたその延長で続けていたようなものですが、橋本聖子さんの出身地ということもあり、スピードスケートになじみの深い土地柄ということもあったのかもしれませんが、オリンピックなどで地元選手等が活躍している姿を見て、「僕もメダルを獲りたい!」「世界大会に出たい!」と思い始めた事が、僕がスピードスケートの世界にのめりこんで行ったきっかけだと思います。

今回ワールドカップが行われたイタリアのコラルボは、二〇〇〇年に世界ジュニア選手権大会で一度滑っ

たことのあるリンクでした。その時はすごく良い感じで滑る事ができ、食事もおいしく景色も抜群に素晴らしい、相性の良い地域、リンクだと思っていました。今回も最高に気分良く生活し、しっかりとしたレースができるリンクだと感じました。一日目の結果は、五〇〇メートル三位

だったのですが、そのレース前から何かいけるような気がしました。その勢いが二日目につながったのだと思います。しかし、優勝したといってもその一回だけでしたので、来シーズンはより良い成績を出せるように練習を積んでいきたいと思えます。

今後は、二年後のトリノオリンピックに出場する事が目標ですが、まず一つ一つのレースを大切に、無駄にしないようにしっかり滑っていきたいと思います。そしてオリンピックでは自分の納得できる成績を

出し、見ていただいている皆さんにも、喜んでもらえるように日々努力していきたいと思っています。

これからも応援よろしくお願います。

### 小林 正暢 氏

一九八〇年九月十三日生まれ。北海道帯広白樺学園高校卒。明治大学経営学部経営学科卒。

ワールドカップ・コラルボ大会男子五〇〇Mに出場し、見事優勝。

#### 【〇三年】

十一月 全日本距離選手権大会 一、〇〇〇M 二位

小駒内選抜競技会 五〇〇M 二位

小駒内選抜競技会 一、〇〇〇M 二位

浅間選抜競技会 五〇〇M 三位

浅間選抜競技会 一、〇〇〇M 二位

十二月 ワールドカップソルトレイシティ 五〇〇M 四位

全日本スプリント選手権大会 総合 四位

現在山形県体育協会に勤務。



# 輝かしき記録に想う

## 第三回ヨーロッパ選手権大会

極真空手・軽量級(七〇キロ未満)  
極真会館田畑道場

清水 明広

去る、十一月十五日、ベルギーで開催された、ヨーロッパ大会に行ってきました。ヨーロッパの選手は皆、体が大きく骨太で日本人にはないパワー・スピードを感じました。しかし、師範と自分が一心同体となり、そして、サポートしてくれた皆が一心同体となる事で、自分自身の力を最大限にまで引きだしてもらいました。この優勝は、田畑道場の結束力をもってできた優勝だと本当に感謝しております。

極真空手を始めたきっかけは、ケンカに負けにくくなったからなのですが、自分の気持ちの弱さに嫌気がさしていたという事も多々あり、田畑道場の門を叩きました。田畑師範は、故大山総裁の内弟子です。師範からは、稽古や私生活を通じて多くの事を学んでいます、中でも特に何事も信念を持って徹してやり抜くという大切さを師範の姿から教わりました。田畑道場には、幼年・少年・女子・壮年・一般の部、そして選手クラスとありますが、それぞれのクラスで目的意識がはっきりしており、全クラス通じて稽古する毎に自己が活性化され、自信を持ち変わっていく姿が自他共に感じる事ができます。

これからは、今、現役時代にできる経験をしつつ、積み、土台にし、極真空手道を通じ、自らが本然の力の発現者となり、自他共に真の幸福を建設する事ができるよう、将来を見つめ、一步一步邁進していきたいと思えます。

押忍

右から

事務 長

山形県総本部

田畑 繁 師範

軽量級優勝

清水 明広 初段(山形)

中量級優勝

宮城 健志 二段(沖縄)

沖縄県支部

七戸 康博 師範



## 第五九回国民体育大会冬季国体へ出場して

少年男子大回転

山形中央高等学校(現 日本大学)

山科 博史

二月二十四日、昨日とは打って変わって、快晴、アップの時から、心も体も、普段どうりの自分でいられた。今日もフルアタックで自分の限界に近いスピードで滑れたら、結果は、自然についてくると思った。

少年男子スタート八時、四番スタート、小学四年生の時から、平成十六年度、山形もがみ国体のジュニア強化メンバーとして、頑張ってきたのですが、この一本の滑りだった。スタート直後、まわりの歓声が大きく聞こえた。ゴールと同時に、掲示板に目をやった、一番上にNo.4山科博史・一分一秒五三、おもしろガッツポーズがでた。

「プレッシャーはあったけど、完璧な滑りができて最高だった。」

地元開催の国体で勝てたことが、これからの自分にとって大きな自信につながってゆくと思えます。

多くの人たちに応援していただき、そして僕を指導してくださった方々に心から感謝しています。

今後、さらなる目標に向かって頑張つてゆきたいと思えます。ありがとうございました。



写真提供・山形新聞社

## 全日本選手権大会

フェンシング(エペ個人)

山形クラブ(筑波大学大学院)

原 田 めぐみ

私が高校でフェンシングを始めたきっかけは全大会に行きたかったというのが口実に、色んな地方へ行ってみたかったというのが正直な理由です。そんなきっかけで始めたフェンシングも大学で続けることになり、二年の時に初めて全日本選手権に出場しました。その時は八位でしたが、五回日のチャレンジの去年、念願の優勝をすることが出来ました。まだまだ未熟ですが、そんな中でも自分自身のスタイル・方向性・可能性の把握が自信へと繋がった結果、優勝出来たのではないかと思います。終わってみて一番思ったことは『楽しかった』という事でした。思い返せば初めて出場した時は悔しさから負けた原因や自分を知らないと四苦八苦し、弱点を主観的に客観的に考えられるようになるために悩みました。全ては優勝したかったからだと思います。今までも様々な体験をしてきましたが、怪我をした事から予防に努めるようになったり、自分の律し方を学んだ事もありました。同じ事は繰り返さない事を『心』と『身体』で感じて体現すること、それが成長となったと思います。それはこれからも一生続くことなので『過去』に満足せず、『未来』に縛られず『今』を一生懸命生きたいと思います。そのために何がしたいか、何が出来るか、何が必要か、という漠然としたものを日々具体的に認識することで迷い無く進んで行きたいと思えます。



これからは世界ランキングをもっと上げて世界に通用するフェンサーになることが目標です。オリンピックへの出場も終わってしまえば過去の事なるものなので、そこに満足しないでどんどん自分を成長させて行きたいと思えます。

# 輝かしき記録に想う

## 全国都道府県対抗女子駅伝

駅伝（スポーツ山形21）

熊坂香織

中学校で月一回行われていた体力づくりが陸上（駅伝）を始めたきっかけでした。

初めは学年で三位くらいだったのに、気が付けば先頭を走っていた私……。そんな私に陸上部の顧問の先生から声をかけていただき、テニス部から陸上部に転部して陸上を始めるとなりました。小学校でも持久走大会に出場した事はあったのですが、練習が辛くて「中学生になったら陸上はしない！」と決めてテニス



部に入部したのに、結局は陸上部に入部してしまいました。でもそんな事があつたお陰で中学二年の時に初めて『第十三回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会』に出場し、全国の舞台を経験する事が出来ました。

それから九年後の二〇〇四年一月十一日『第二二回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会』に出場の機会に恵まれ、そしてその結果が、山形県チーム第四位という快挙！アンカーの斉藤選手がゴールした時は思わず涙がこぼれました。山形県チームの目標は「入賞」という事を掲げていたので、達成した喜び、そしてチームの一員として走れた喜びを実感できて本当に嬉しかったです。個人としても区間二位という事で区間賞まであと二秒でしたが、一年間のブランドンク生活からもう一度全国の舞台上に走りたいという思いでスタートし陸上競技を始め約一年、都道府県対抗女子駅伝を目標にして頑張ってきた結果が区間二位という事でとても満足でした。しかしこの成績に満足する事なく、これからも更に目標を高く持つて頑張つてゆきます。

第四位という成績が残せて来年の都道府県対抗女子駅伝での走り、そして成績に県民の皆さんからの期待も大きいと思います。その期待にこたえられる様、これからも初心を忘れず日々努力していきたいと思っています。皆様からの声援が何よりの力になります。これからも応援よろしくお願ひします。

## 全国高等学校選抜

ライフル射撃競技選手権大会で優勝して

射撃（山形城北高等学校）

新宮由貴

三月二十五日・二十六日の二日間、静岡県藤枝市にある「スポーツパル高根の郷ライフル射撃場」を会場として行われた「平成十五年全国高等学校選抜ライフル射撃競技選手権大会」に出場してきました。

私は、「東北・北海道ブロック」の代表として出場しただけに、心の中は重責で一杯でしたが、とにかく「生懸命にがんばろう。」と、心に決めて会場入りしました。

当日は、昨日からの不安と緊張が解けないまま、競技開始十五分前となり、自分の射座に入り精神統一をし、本番に備えました。射場長の

「射撃始め」の号令で試合が始まり、最初は、極度の緊張で足が震えましたが、本射に入る頃には、自分のペーシングを取り戻し、いつもの調子で撃ち終わることができました。

予選が終了し、記録発表までの時間がとても長く感じましたが、係りの先生が貼り出している順位表を恐る恐る見ると、なんと、自分の名前が一番上に書いてあり、一瞬目を疑いました。紛れもなく予選一位！本当に嬉しく感じました。その後のファイナル（十発の決勝）では、途中極度の緊張から下位に下がったものの、自分を信じ、一発一発集中して射撃を行った結果、目標の「ファイナル優勝」することができました。表彰式では、この大会での自分の責務を果たしたという安堵感、そして優勝した達成感で一杯となり涙が落ちそうになりました。



ライフル射撃競技を通し「平常心の大切さ」や「最後まであきらめない」など、いろいろな学ぶことができ、一生忘れられないものとなりました。これから、高校生の選手としていられるのは半年もありませんが、各種大会での優勝や新記録を目指して精一杯がんばりますので、声援よろしくお願ひいたします。

SPORTS PEAK PERFORMANCE

写真提供: 山形新聞社



第59回国民体育大会冬季大会  
大回転成年男子B: 優勝  
佐藤照友旭



JA全農杯チビリンピック  
小学生8人制サッカー大会: 準優勝  
OSAフォルトナ山形



第9回新化旗争奪  
全国中学校選抜大会: 優勝  
山形市立第三中学校



バスケットボール女子  
アジア選手権大会: 準優勝  
ジャパンエナジー・大神雄子

競技	氏名	所属	種目	成績
<b>☆W杯</b>				
スケート	小林 正暢	県スポーツ技術員	ソルトレイクシティー大会 (第1日) 男子1,000m Bクラス	1位
			ソルトレイクシティー大会 (最終日) 男子500m	4位
			ヘーレンフェイン大会 (第1日) 男子500m Aクラス	6位
			コラルボ大会 (第1日) 男子500m Aクラス	3位
			コラルボ大会 (最終日) 男子500m Aクラス	1位
			コラルボ大会 (最終日) 男子1,000m Bクラス	2位
スキー	滝沢 宏臣	ディナスターラングスキークラブ	インツェル大会 男子500m Aクラス	4位
			世界距離別選手権 男子1,000m	3位
			カルガリー大会 (最終日) 男子500m	6位
			ソルトレイクシティー大会 (第1日) 男子500m	6位
			ソルトレイクシティー大会 (最終日) 男子500m	5位
			ヘーレンフェイン大会 (最終日) 男子500m Aクラス	6位
ライフル射撃	相澤 悠子	日立ハイテクノロジー	ルコンタミネ大会スキークロス (第2戦)	3位
			ボツァディファサ大会スキークロス (第3戦)	3位
<b>☆第3回ヨーロッパ選手権大会</b>				
極真空手	清水 明広	公務員	軽量級 (70キロ未満)	1位
	黒田 誠	極真空手由畑道場職員	重量級 (80キロ以上)	16位
<b>☆バスケットボール女子アジア選手権大会</b>				
バスケットボール	大神 雄子	ジャパンエナジー		2位
<b>☆バレーボールアテネ五輪世界最終予選</b>				
バレーボール	高橋みゆき	NECレッドロケッツ		1位
<b>☆フェンシング全日本選手権</b>				
フェンシング	原田めぐみ	山形クラブ	女子エペ個人	1位
	沼尻美美子	山形クラブ	女子エペ個人	6位
<b>☆日本選手権水泳競技大会兼アテネオリンピック代表選考会</b>				
水泳	中川 陽平	東海大学	男子100m平泳ぎ	6位
<b>☆都道府県対抗女子駅伝</b>				
駅伝	佐藤 由美・熊坂 香織・高橋 由衣・堀絵 理子 渡辺 友恵・高木美沙紀・石山 美保・阿部有香里 齋藤 梢		県選抜チーム	4位
<b>☆仙台ハーフマラソン</b>				
マラソン	石山しおり	三井住友海上 (山形城北高出)		3位
<b>☆全日本実業団ハーフマラソン</b>				
ハーフマラソン	齋藤 梢	グローバリー (山形城北高出)		3位
<b>☆全日本学生アルペンチャンピオン大会</b>				
スキー	渋谷 昇	日本大学	男子大回転	1位
<b>☆蔵王ライザスラローム大会</b>				
スキー	山科 博史	山形中央高校	男子大回転 (第1日)	1位
			男子大回転 (最終日)	3位
	石山 崇史	日本大学	男子大回転 (第1日)	5位
			男子大回転 (最終日)	4位
	渋谷 登	日本大学	男子大回転 (最終日)	6位
	大場 朱莉	日大山形高校	女子大回転 (最終日)	2位
	菊池 麻希	日大山形高校	女子大回転 (第1日)	4位
	村山 彩佳	日大山形高校	女子大回転 (最終日)	4位
赤松かおり	日大山形高校	女子大回転 (最終日)	5位	
			女子大回転 (第1日)	5位
			女子大回転 (最終日)	6位
<b>☆第59回国民体育大会冬季大会</b>				
スキー	佐藤照友旭	県体協	大回転成年男子B	1位
	高橋 直博	県体協	距離成年男子B10キロクラジカル	1位
	山科 博史	山形中央高	大回転少年男子A	1位
	清野 大輔	専修大学	大回転成年男子A	2位
	大場 朱莉	日大山形高	大回転少年女子A	2位
	渋谷 昇	日本大学	大回転成年男子A	3位
	井上 史子	県体協	距離成年女子B5キロクラジカル	5位
	野木 真実	県体協	大回転成年女子B	5位
	園分 惇	日大山形高	大回転少年男子B	5位
	伊東 秀朗	ほくのうち	大回転成年男子B	6位
	赤松かおり	日大山形高	大回転少年女子	6位
	小林 暁	県選抜	成年男子2,000mリレー	2位
	須郷 遼	山形中央高校	少年女子3,000m	5位
	加藤 典三	県選抜	成年女子2,000mリレー	8位
<b>☆全国高校選抜大会</b>				
ライフル射撃	新宮 由貴	山形城北高校		1位
スキー	大場 朱莉	日大山形高校	アルペン女子回転	1位
	赤松かおり	日大山形高校	アルペン女子回転	3位
柔道	高橋 恵子	山形中央高校	女子52キロ級	5位
	小林亜由美	山形中央高校	女子57キロ級	5位
<b>☆全日本ジュニア選手権</b>				
スキー	園分 惇	日大山形高校	男子スーパー大回転	3位
<b>☆JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニア選手権大会</b>				
スキー	清水 宏康	山形中央高校	男子回転	1位
	加藤健太郎	日大山形高校	男子回転	6位
<b>☆JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳大会</b>				
水泳	高橋 理紗	山形商業高校	200m 背泳 (女子15~16歳)	8位
	高橋 武田・庄司・夢田	山形商業高校	400m リレー (女子15~16歳)	4位
			50m 背泳 (女子チャンピオンシップ)	3位
	板垣 明香	山形中央高校	100m 背泳 (女子チャンピオンシップ)	7位
<b>☆第9回新化旗争奪全国中学校選抜大会</b>				
剣道	具田 理沙・遠藤 果歩・松田日香里・奥山 千秋 椎名 少織・安部 詩織・小松 優・小山 早穂		山形市立第三中学校 女子団体	1位
<b>☆JA全農杯チビリンピック小学生8人制サッカー大会</b>				
サッカー	名取 伸・溝口 晃平・石山雄二郎・阿部 将也 相楽 竜司・後藤 大輝・岡崎 鷹利・渡辺 直弘 土居 聖真・佐藤 凌・松永 拓・大岩 永人 菊地 隆椰・村上 拓也・庄司 浩人・浅野 一成	OSAフォルトナ山形	小学生8人制サッカー	2位



昭和8年全国中等学校籃球選手権大会に優勝した山形師範チーム (写真提供 長谷川善助氏)

## 山形市バスケットボールの歴史

山形市協会長 細谷 壽 守

山形市における本競技の発展は、県協会が発足した昭和二十一年、大半の役員が山形市バスケットボール協会の関係者で構成されており、県協会、村山地区協会の役員構成が伝統的に発足の形態を継承している。県、地区の発展、普及が山形市におけるその発展に繋がっているということは過言ではない。

本競技が山形市に伝えられたのは大正十二年のことであり、西欧型球技スポーツとして、サッカー、バレーボールとともに中等学校（現高校）に文部省の伝達講習の形で紹介された。その

伝達講習に山形高等女学校教諭（現山西高）藤井了之助氏、寒河江小学校訓導菅野一郎氏が受講していた。

その後、小学校への普及は一段と進み、昭和五年には山形市内のほとんどの小学校でバスケットボールリングが設置されるようになった。

昭和十年頃までに、中等学校（現高校）男子二〇校、女子十二校がチームを編成しており、底辺の拡大が功を奏し、昭和八年第十回全日本中学選手権（師範の部）で山形師範が全国優勝、昭和九年、第四回全日本総合女子選手権で山形嚶鳴倶楽部が全国優勝をとげた源となった。

昭和二十年以降では、高校男子において、山形東高が昭和二十八年までに全国高校選手権等でベスト4を四回、日大山高が昭和五十七年選抜優勝をはじめとし、全国高校選手権で四十一年、四十七年、五十六年に全国準優勝三回、平成十一年ベスト4を達成、山形南高も平成九年全国高校でベスト4、全国選抜で準優勝に輝き、高校女子では山形学院高が昭和四十七年、全国高校においてベスト4に入っている。中学関係では全国中学校優勝大会女子の部において、昭和五十年山形三中、平成九年山形一中が全国二位を獲得、昭和六十年全国クラブ選手権で日大山高クラブが優勝、国体では成年男子が平成二〇〇四年、三年連続優勝の快挙を成し遂げ、成年女子も平成四年準優勝などの金字塔を達成している。最近では競技人口が減りつつあるが、明日ある児童、生徒、青年のために汗を流していきたい。

## 山形猟友会

会長 大村 良 男

財団法人山形市体育協会より、猟友会の存在を理解していただき加盟参加して六年に成る所です。会員数は、平成十年度は三二〇名程でしたが、近年では二四〇名に減少している所です。毎年競技大会等は、ライフル、スラッグ射撃大会、安全狩猟フィールド射撃大会、体育協会フィールド射撃大会等実施しております。県大会、全国大会、団体と競技が開催されております。今



後も続けて行く予定です。ただ非常に残念な事は山形市内に練習する射撃場がない事です。山形市内に射撃場が出来れば、なお一層強化し、優秀な成果が期待されるのではないかと考えている所です。先に三団体射撃場建設同盟会を立ち上げてから十三年の年月がたちました。その間、場所の視察、行政機関と一緒になり、その間、県外の射撃場視察、国体の視察と数回に渡り、がんばって来た所です。財政的にも厳しく、今の所は足踏の状況になっています。私達は早期実現に向け、行政の力添えを得て共にがんばって行きたいと思っております。

さて、農作業に従事している方々の生活を守り、サクランボに対する有害捕獲、クマ、サル、サルの有害捕獲等行っている所です。一部自然破壊で、クマ、サル、他の動物も山里に下り、リンゴ、栗、スイカ、カボチャ、他の作物の被害が大なのでありますと共に、人的被害に合わないように、クマを見つけたら地域の農協に連絡し許可申請、基本的に地域の猟友会で有害駆除捕獲する事に成ります。自然と人間の調和、バランスを計れる事を折に希望致します。

# [ 山形市体育協会、今昔 ]

昭和48年度「体育の日」山形市記念行事 荒木 善行(市体育協会顧問)

今回は年代が少し逆行するが、四十年代の「体育の日記念行事」について記しておこう。これは、昭和三十九年の東京オリンピックを記念し、十月十日を祝日として「体育の日」が制定され、全国的に毎年メモリアル行事を行ってきた。山形市でも四十年(五十四年まで「体育の日記念行事」として保健体育課と市協が計画し、霞城公園内施設を中心に実施してきた(五十五年からは市民運動会、山形市スポーツ年表)。四十八年度の行事内容は、一般市民を参加対象にし、市民家庭バレーボール、市民軟式・硬式庭球、体協加盟種目別対抗ソフトボール、弓道教室、第一霞城公園試走会などであった。

第一回霞城公園試走式は「ゆっくりと遠くまで、遠くまでゆっくりと」をテーマに市陸上競技協会として記念行事への初参加であった。場所は、体育館前からスタートし道路一周約八〇〇メートルで、チビッコの部一周・中学校の部二周・女子の部(中学生以上)二周・男子二九歳まで五周・三〇歳まで三周・四〇歳以上二周として行われた。当時、高度経済成長の最中に高まりつつあったジョギング熱であったが、山形市内では男女を問わず一般家庭人が街頭を走るなどは、変人視されお呼びもつかないものであった。この現状からも果たして参加者がいるのだろうか、市民の健康と運動との関係に関心を呼び覚ます事が出来るのだろうか心配だった。長距離専門の金田・大坂両氏とも相談し、前記した距離の設定、全員のタイムを測定、各部門三位まで表彰するなどを決め当日を迎えたのである。幸いに好天に恵まれ出場者には、快い汗と満足感を与え「運動の活性化」への火付け役を果たしたような気分であった。ただ、女子の参加があるのだろうか心配で、ゼロにならないようにと数日前から家内に出場するよう説得していた。果たして女子の参加は、東京からご主人の転勤で山形へ来た主婦の方と私の家内の二名あり、ホット胸をなで下ろした。私の家内も第二位の賞状を戴き、今もって二人の笑い話の一つで恩を着せられている。また、昨年結成三〇周年を迎えた「山形走ろう会」も、この霞城公園試走会が結成の動機づけになったことを考えると時代の流れをかんずる。

## 地区振興会巡り

### 第3回(大郷地区)

#### 大郷地区体育振興会の歩み

大郷地区体育振興会会長 佐藤 博志

大郷地区に体育振興会が発足したのは、昭和五十四年であった。市の体育指導員をしていた安達欣一氏らが大変苦勞して立ち上げ、難産のすえ誕生した。当時、大郷地区はそれほどスポーツは盛んではなかったが、少しずつ地区内にスポーツ少年団やスポーツ愛好会を発足させ、地域スポーツの振興と地区民の交流、親睦を図って来た。その結果が、市民運動会での過去九回(三回の三連覇)の優勝につながったと思われる。

現在の体育振興会は、事務局員二〇名、常任委員十五名、そして委員は四六名で、総務部、競技部、施設部、広報部の四つに分かれ、総勢八一名の構成となっている。体育振興会が運営している主な行事は、会報の発行並びに地区民スポーツ大会(ゲートボール、ソフトボール、ソフトバレーボール、ボウリング競技)、地区民運動会、スポーツ各種団体懇談会、体育振興会役員研修会等であり、その他各種スポーツ大会及び公民館事業等への協力を行っている。



昨年度、大郷スポーツ少年団(スイミングクラブ、バレーボールクラブ、剣生会)に、新たに五つめのスポーツ団体「大郷ベースボールクラブ」が誕生した。将来の松井秀喜、野茂英雄を目指し練習に励んでいる。体育振興会は、これからも元気なまちづくりのためにスポーツ振興を通じて活動を展開していきます。

# 第50回 県縦断駅伝大会

菊池 次郎

個人成績 (第6区・1位/第27区・2位)



このたび第五〇回山形県縦断駅伝に参加し、ひさびさに駅伝の楽しさを味わった。自分はトライアスロンを専門にしているため、陸上や駅伝の大会にはほとんど出ない。しかし、この縦断駅伝は別である。忙しい中、毎年参加している。何より山形県民の注目度が違う。非常に盛り上がる。自分も知らず知らずのうちに熱くなる。それはそうだ、山形市民を代表して走っているのだ。そして、山形市民の期待を感じて走る緊張感、重圧感がたまらない。そして山形市に感謝の気持ちを込めて走る。こういう最高の舞台で走ることが出来る自分は幸せ者だ。

話は変わるが、縦断駅伝に出場する人の多くは仕事をしながら、トレーニングをしている。一日の中でうまく時間を見つけトレーニングを続ける。毎日の継続が大切だ。かく言う自分も医師として研究しながら、かつ働きながらの日だ。傍から見ると、そんなに頑張らなくてもいいのに、と思うかも知れない。しかし、最近思うことに頑張れる幸せ、というものを感じる。困難な状況であればあるほど、楽しさも何十倍にも膨れ上がる。そういう厳しい状況で頑張れる幸せ、まさに人生最高の喜びである。

最後に、たかが縦断駅伝、されど縦断駅伝、それが人生。

## 各種イベント

4月	第1回理事会・評議員会
5月	平成15年度功労賞・敢闘賞表彰式 こどもの日野球教室(5月5日) 第1回ファミリースポーツスクール
6月	機関紙「躍動」第7号発行 第1回ジュニアスポーツスクール ママさんゼミナール
7月	第1・2回キッズスポーツスクール
8月	第2回ジュニアスポーツスクール 第3回キッズスポーツスクール
9月	第2回ファミリースポーツスクール 第4回キッズスポーツスクール
10月	山形市民総合運動会 第3回ジュニアスポーツスクール
11月	第5・6回キッズスポーツスクール
12月	機関紙「躍動」第8号発行 第5回スポーツシンポジウム
1月	第7・8回キッズスポーツスクール
2月	第4回ジュニアスポーツスクール
3月	理事会・評議員会 平成16年度功労賞・敢闘賞の選考

※詳細につきましては、(財)山形市体育協会へご連絡ください。  
尚、十六年度の事業予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

財団法人山形市体育協会

## ホームページ開設

平成16年6月より、(財)山形市体育協会のホームページが開設しました。

まだ内容が充実していませんが、市民の皆様にご覧頂けるような様々な情報を掲載していきますので、是非ご覧下さい。

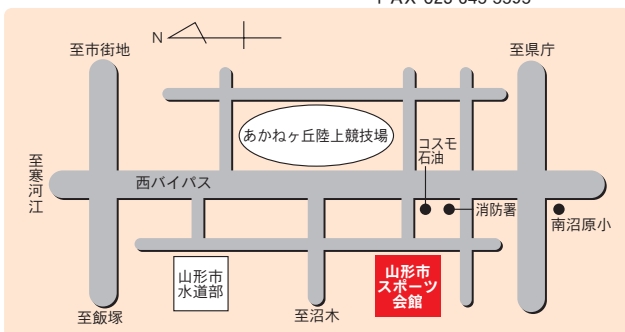
(財)山形市体育協会  
ホームページアドレス



<http://business3.plala.or.jp/y-spokan/>

財団法人 山形市体育協会事務局 (山形市スポーツ会館)

〒990-2477 山形市長苗代61番地 TEL 023-647-4175  
FAX 023-645-5595



## 編集後記

今号は各種大会で選手諸君の大活躍により、紙面不足を心配するほどでした。スポーツは頂点に立つよりも維持することが難しいといわれておりますが、今後とも精進され、これまで以上にご活躍され、機関紙「躍動」の紙面を賑わしてくれることをお願いいたしております。

広報委員長 工平 貴夫

## 躍動 第7号 2004 June

【発行】 財団法人山形市体育協会  
 【編集委員】 工平貴夫、後藤正博、須貝秀雄、奥山敏一、富樫庄一、大坂吉弥、長沼千歳、榊寿一、橋本則之、西村久男、地主幸雄、荒井敬次郎  
 【事務局】 〒990-2477 山形市長苗代61番地 山形市スポーツ会館内 TEL 023-647-4175 FAX 023-645-5595  
 【印刷】 (株)大風印刷